石鹸洗剤・日用品雑貨業界 60年の歩み

＜1948（昭和23）年＞～1961（昭和36）年＞

■1948（昭和23）年

・絶対的権限を持つＧＨＱの行政下で、「代用洗剤」「マル許石鹸」がはんらん。その中にヤミ石鹸や、半日太陽にさらすと半分に減ってしまう水石鹸が横行。
・京都石鹸洗剤工業協同組合が一月に設立。
・油脂中小工業者連盟が同連盟近畿支部連盟会を結成。
・大阪府雑油集荷商工組合は名称を大阪雑油脂商工協同組合に改めた。
・九月の商工省原料割当審議会で、オールクーポン制について、一九四九年三月から還流クーポン制を実施、超過供出を認めない、新指定業者の原料配分基準を四・四半期七〇％とすることを決定。
・鐘淵油脂は社名を酸水素油脂工業に変更。
・サンスター歯磨、ダリヤ工業、ペリカン石鹸が創業。
・物価庁は石鹸・洗剤の新公価を決定、即日実施した。
・新規一号石鹸工場二十三社は清和油脂中村社長を議長に協議し「鹸友会」を結成。しかし、十一月の緊急総会で協同組合設立を前提として発展的解消することに全員が賛成。
・日産化学工業は特殊整理委員会から独立、分離会社設立を指令され、石鹸部、油脂化工部を日本油脂に分離して再発足。

■1949（昭和24）年

・四月十五日、石鹸の配給規則が公布され、五月十五日から施行された。
・四月、油脂工業協会福島正雄会長は物価庁次長に就任、後任に日本油脂社長黒部貞雄氏が内定。
・七月、石鹸工場の新設・増設三百六十九工場が通産省の指定合格工場に決まった。

本紙座談会に出席した石鹸中小メーカーの代表

・十月、通産省発表の二・四半期家庭用石鹸予約集計で、日本油脂がトップの千五百十五万七千三百八十票を集めた。
・中小工の全国団体「油脂中小工業連盟」が解散、「全国油脂工業連盟」で再出発した。
・油脂中小工業連盟は、集中生産方式優先による原料割り当てに対して緊急対策協議会を開き、中小の現状と声を当局に陳情することを決定。東西で中小企業者各二百人が参集、反対大会を開いた。
・石鹸新規業者大会で新規企業者対策委員会を結成。
・通産省油脂製品課は家庭用一号石鹸改定価格を内定。
・マッチの配給統制が撤廃された。

東京の製販両者が予約戦を回顧

・十二月、全国のマル労働者六十社が東京に参集し、配給規制による予約会社の食い違いについて決議、安本、通産両省に陳情した。

■1950（昭和25）年

・ソープレスソープの第一号が、日本油脂佃工場で完成。
・石鹸配給規則が七月二十日から廃止、事実上の統制撤廃となった。
・物価庁は化粧石鹸の例外価格を、八月三十一日付で許可した。五十円以下の化粧石鹸に適用。期間は六カ月。
・油脂工業協会が解散し、九月一日、石鹸、油脂加工、繊維油剤の三工業会が誕生。
・全国油脂工業連盟は、東京油脂会館で役員会と臨時総会を開催し、マル許洗剤の石鹸配給規則からの除外、マル労石鹸予約券の地方発給、例外許可価格の地方移譲、油かすの価格引き下げなどを決定した。
・二月、油脂統制撤廃について油脂工業協会が関係官庁に対し陳情書を提出。その後全国的な運動になり、油脂工業協会、日本塗料工業会、東京石鹸同業会、日本人造バター工業会など八団体連名で関係筋に連合陳情書を提出した。
・三月、日本工業標準規格の石鹸部門につき日本油脂工業協会は委員会を設けた。
・油脂工業協会は大蔵省主税局に「外国石鹸無税輸入に反対」という陳情書を提出。
・四月、油脂工業協会全国大会が開かれ、工業油脂値上げ反対を決議、陳情書を関係先に提出。
・共進社油脂工業は、牛乳石鹸の輸出型「ＣＯＷ・ＢＲＡＮＤ・ＳＯＡＰ」を大阪の全百貨店で売り出した。
・大阪石鹸洗剤工業協組は時代の変化に伴い、ついに解散。
・四月には、配給辞退による配給石鹸の滞貨（無銘柄十万個）が目立った。
・物価庁は高級石鹸の例外価格許可申請第一次分を八月に締め切った。
・ジェーン台風による日本油脂千舟、佃、尼崎をはじめとする石鹸工場の被災総額は数千万円に上ると言われた。
・十月、ライオン油脂は倍額の一億円増資を決定。
・丸見屋は「ミツワわくねり石鹸」を本格的に売り出した。

■1951（昭和26）年

・一月、Ｐ＆Ｇ社のマックレイ社長、リングリ副社長が日本市場視察で来日。
・中小メーカー団体「大阪府石鹸工業協組」が創立総会を開催。
・花王油脂の社長に磯部愉一郎氏（元旭電化社長）が就任。
・三月、大メーカー筋は一斉に値上げを実施、化粧石鹸最終価三十円、洗濯石鹸二十五円が全般的傾向となった。
・花王石鹸専務丸田芳郎氏が三カ月に及ぶアメリカ視察から帰国。
・共進社油脂工業は「三千番牛乳石鹸」「大型純ねり牛乳石鹸」の新製品を完成、出荷を始めた。
・ライオン油脂は東芝油脂を買収、専属の九州工場として新発足した。

■1952（昭和27）年

・八月、資生堂は葉緑素配合の化粧石鹸「オリーブ石鹸」三種を発売。
・九月、「ニッサン」「ミツワ」「サンソ」のブランドによるラジオ放送での宣伝が始まった。
・十月、サンスター化学工業が「サンスター石鹸」を発売。
・ミヨシ油脂は創立三十周年記念式典を開催。
・サクラニホンの朝日油脂が十二月、全面整理に入った。
・このころ、有名石鹸の偽造品が市場にはんらん、その対策に各メーカーは難渋した。
・花王油脂は高級アルコール系新洗剤「エキセリン」を新発売。
・塩野化工は十二月、「塩野香料」に社名を改称した。

丸見屋・三輪善雄氏が欧米視察から帰国

・一月、旭電化が創立三十五周年を迎えた。
・三月、コルゲート・パルモリーブの関西扱い店が大粧など九店となった。
・東京石鹸同業会は、原材料対策に万全を期すため、四協同組合を設立。
・花王油脂では乱売防止のため、京阪神地区で出荷停止を行った。
・丸見屋は「ミツワ三十番」を発売した。

■1953（昭和28）年

・五月、花王油脂は本社を吾嬬工場に移転し、約二百五十人の人的合理化を断行。
・日本石鹸工業会は理事会で東海林武雄氏（旭電化専務）の会長就任を決定。
・第一工業製薬は第六十五期決算で約二千万円の赤字となり、山崎副社長、慶田専務が退陣した。
・共進社油脂工業は倍額増資して新資本金二千万円となった。
・花王油脂の争議が九月十六日、解決した。
・芳誠舎が創立六十年式典を開催。
・十一月、資生堂が躍進五カ年計画期成大会の大阪式典を、創業八十周年を兼ねて開催。
・鐘渕化学から一個二百円のデパート専売品「銀箱」が売り出された。
・サンスター歯磨から「葉緑素歯磨き」が発売。
・十二月、花王油脂は東京で小売店直送を実施。
・「ニッサン」「チッソ」「ライオン」「アデカ」といった洗濯石鹸ブランドを持つ大手筋は、全国的に特売を実施、生産過剰の実情を表してきた。
・愛知県石鹸同業会が解散、新たに愛知、三重、岐阜の三県を一体とする「中部石鹸製造同業会」を結成。
・第一工業製薬は、資本金を三億円に増資した。
・二月に牛脂輸入ストップによる価格高騰が起こり、業界では原料油脂関税引き上げの反対陳情を行った。
・三―四月にわたって一斉値上げを行った各社の洗濯石鹸が、牛脂輸入再開の報により原料相場が軟弱化、五月には洗濯石鹸の価格がダウンした。
・四月、丸見屋が薬用石鹸「ミューズ」を新発売。

花王石鹸がネーミングを公募した「ワンダフル」が誕生

・花王石鹸は四月、「花王粉せんたく」に代わるソープレスソープブランドを公募した結果、「ワンダフル」と決定した。
・五月、大阪府石鹸工業協組が「近畿石鹸工業協組」と改め、理事長に木本郁氏（日本石鹸社長）を選出した。
・五月、日本油脂労働組合は結成後初のストライキを行った。
・六月、業界安定を協議する「業界安定のための業者大会」（石鹸新報社主催）を催した。
・一九五三年の石鹸生産計画が一八万八二〇〇㌧と決定。
・八月、資生堂が「パール歯磨」を新発売。
・十月、化粧石鹸、洗剤が再販商品に決定することを発表。
・十一月、旭電化の社長に東海林武雄氏が就任。

■1954（昭和29）年

・二月一日、東京地区ライオン石鹸会が百十店参加の下に組織された。
・花王石鹸と花王油脂の合併調印が二月二十六日に行われ、四月二十三日に合併総会が開かれた。新社名は「花王石鹸」。新社長に元経団連事務局長の福島正雄氏が就任。
・二月に第一工業製薬がモノゲンの再販売価格維持契約を実施。
・二月、共進社油脂工業が牛乳石鹸全国代表代理店会を開催。
・三月、ライオン油脂がソープレスソープ「ニューライポン」を新発売。
・資生堂社長松本昇氏が六月七日、六十八歳で逝去した。
・日本石鹸は六月十二日、内整理に入った。
・六月、中山太陽堂が不渡りを出したが、同年十月には再建計画を発表した。
・マッチ業界に、中小企業安定法による調整が発動、七―八月六万八〇〇〇㌧の割当数量が決定。
・八月、サンスター歯磨が三倍増資して新資本金が一億五千万円となった。
・八月、日本石鹸工業会関西支部二水会は、洗濯石鹸のセロハン包みの廃止運動を起こすことを決定。
・十月、大阪石鹸卸協組が創立総会を開き、初代理事長に清水信三氏（清水忠）が選ばれた。
・三月から牛脂輸入が需要者別外貨割当制となったが、十月にはこの割当を巡って油脂工業会と中小メーカーの対立が表面化。
・十一月、牛脂事情の窮迫から、大手の旭電化、日本油脂、ライオン油脂の三社は洗濯石鹸の値上げを一〇〇㌔当たり三十―七十銭程度で実施することを発表した。
・十二月、大同除虫菊が「ライオン巴型」一本に統一を決めた。
・近畿石鹸工業協同組合は、抜き玉石鹸の価格問題で、最低一〇〇㌔十五円五十銭を堅持することを決定した。

■1955（昭和30）年

・二月、大同除虫菊が全国各地でライオン会結成に動き、特許制度七十周年で上山式自動機が特賞に選ばれた。
・二月、東京石鹸同業会は、牛脂の異常高騰と副原料の高値に合わせ、各得意先に値上げを通達。
・三月、日本油脂が洗濯石鹸の値上げを発表。
・三月、通産省は新年度牛脂の割当を一一万㌧と決定。
・四月二十七日、日本石鹸工業会と日本油脂加工工業会が合併し、新たに「日本油脂工業会」が発足、会長に東海林武雄氏（旭電化）が就任した。
・八月、全国サンスター会の会長に二六商会神鳥社長が決まった。
・八月末、ライオン油脂・本郷常務の申し入れで、大橋（日本油脂）、東海林（旭電化）、中井（日華油脂）、小林（ライオン油脂）の四巨頭が会談。洗濯石鹸、マーガリン業界混迷の打破に立ち上がった。
・サンスター歯磨はサンスター会結成記念全国大会を九月に開いた。
・十月、清和油脂工業は「皆様石鹸」百万個無料進呈のクーポンを大毎夕刊に発表して話題を呼んだ。
・十月、日本油脂が合理化のため佃工場を閉鎖、人員整理二百人を実施、今後の油脂工場は兵庫、尼崎、王子の三工場に集中するとした。
・旭電化、丸見屋、第一工業製薬、共進社油脂工業などに新鋭機が続々入荷し、大手の合理化が本格化してきた。
・十月、在阪化粧石鹸メーカーが化粧石鹸の諸問題対策のための定期会合鹸友会を発足。
・十一月に「花王フェザーシャンプー」が発売された。

■1956（昭和31）年

・二月、第一工業製薬は本邦初の向流方ジェット乾燥装置を公開。
・四月、愛知県石鹸卸商業組合が組合員百七十人で創立。
・七月、大阪府石鹸卸協組主催の「第一回石鹸まつり」が大阪で開催。
・八月、関東石鹸工業協組連合会と近石工組、中部石鹸工組が協議、陳情書で中小企業安定法指定を提出。
・九月、日本油脂が兵庫工場を閉鎖、人員四百人解雇を含む整理に着手。
・十月、石鹸製造業は安定法の指定業種となった。
・十一月、日華油脂は労組のストに対抗、無期限ロックアウトを実施した。
・十二月三十日、ミヨシ油脂は文書で日本油脂工業会に脱退届を提出。
・産業各界の代表者による訪比経済使節団の化学工業会代表として、花王石鹸福島正雄社長が選出された。
・花王石鹸は五億五千万円を投資し、和歌山に高圧還元から一貫工場建設に着工した。
・資生堂は「センタックス」を復活販売。
・「モノゲン」の総額三億円の全国大特売が実施された。
・関鹸連、中部工組、近畿工組の中小三団体で推進していた連合機関「日鹸連」の設立がいよいよ本決まりとなった。
・在阪中小化粧メーカーの鹸友会では、抜き玉の価格引き上げ問題を討議、六月以後の出荷分から生販価格を一円値上げすることを決定。
・太陽油脂は創立十周年、松山油脂は創立二十五周年を迎え、それぞれ記念式典を催した。

■1957（昭和32）年

・二月十一日、大日本除虫菊は創業七十周年を記念して「全国金鳥会総会」を催した。
・三月、ライオン歯磨が近畿・中国・四国のライオン会を開き再編成を行った。
・ミヨシ油脂は四月、油脂工のあっせんで退会を白紙に。
・芳誠舎は四月八日の臨時総会で、ミヨシ油脂社長三木春逸氏を社長に選任。

2万2000人が参加した
大阪でのジャブジャブショー

・ライオン油脂の「ジャブジャブショー」が四月十三日、大阪ナンバ体育館に二万二千人の愛用者を集めて開かれた。
・四月、全国サンスター会の会長に大粧社長宮永直治氏が選ばれた。
・五月八日、天皇・皇后両陛下が関のフェザー剃刀工場をご覧になった。
・六月、関西洋蝋燭協組が新発足した。
・共進社油脂工業が「牛印コナ石鹸」を七月下旬から新発売した。

石鹸まつりの先導車に
乗る「花」ファッションモデル

・七月、日本油脂工業会、近畿石鹸工協組、大阪府石鹸卸協組共催の「第二回石鹸祭り」の行事である装飾車市内パレードが大阪で行われた。
・十月、除虫菊工業会の総会で、新会長に川島正一氏（大日本除虫菊専務）を選出した。
・十月、清和油脂工業が行き詰まり操業を中止したが、十一月、新社名「皆様石鹸」として再発足。
・東京石鹸同業会は年初一割方の洗濯石鹸の値上げを表明。
・十二月、花王石鹸の和歌山工場が完成。
・ライオン油脂は平井工場の新鋭設備の増強を実施。
・旭電化は創立四十周年を迎え、二十二億円の資金を投入、あらゆる部門の拡大設備を実施。
・日本殖産石鹸が創業二十五周年を迎えた。
・粉石鹸にポリ袋ブームが到来。先手を取ったのは中小メーカー。

■1958（昭和33）年

・亀山蝋燭が二月二十日、創業三十周年式典を開き、全国から三百店が参列した。
・日本油脂工業会と日本石鹸工業協組連合会で合意に達した「日本石鹸調整組合」の創立総会が二月二十七日、日本工業クラブで開かれ、東海林日石工会長が理事長に選ばれた。
・資生堂は四月、資生堂ホールセール組織確立記念大会を開いた。
・花王石鹸は花王共栄会臨時役員会で「フェザーシャンプー」「ブルーワンダフル」の価格維持具体策として「再確認書」をとるなどの改善策を打ち出した。
・日華油脂は五月からニッカ石鹸として新発足した。
・児玉兄弟商会社長児玉佐治郎氏が六月三日、七十二歳で急逝した。
・シェル石油の「ティーポール四一五」の販売会社「日本ティーポール販売」が七月一日発足。
・サンスター歯磨の高槻工場が八月二十日に竣工。
・花王石鹸の新台所用洗剤「ワンダフルK」が八月十八日、発表された。
・八月二十六日、日本石鹸工組の調整事業には関係ないと、化粧大手四社（花王、丸見屋、共進社油脂工業、資生堂）が加盟を拒否した。
・十月、西日本洋ローソク工業組合が創立総会を開いた。
・十月に、共進社油脂工業と第一工業製薬が相次いで創業五十周年の記念式典を開催。
・ライオン歯磨相談役・小林富次郎翁が十一月二十日、八十七歳で逝去した。
・鎌田商会は十二月七日、熱海で白元会の創立総会を開いた。
・五色のアルミホイル包装による「新花王石鹸」が新発売された。

■1959（昭和34）年

・一月五日、石鹸新報社主催による業界初の新年年賀パーティーが、大阪松坂屋長生殿ホールで開催。
・一月五日、第一工業製薬創始者・小野茂平氏が死去、七十八歳。
・三月十八日、資生堂社長・与田光男氏が六十三歳で急逝した。同社では二十六日、伊藤隆男専務の社長昇格を決めた。
・三月に日本油脂が日本油脂工業会を脱会した。
・四月、日本油脂が「ニッサンセブンK」を新発売した。
・五月、東京都卸組は丸山松治氏から岩田勘良氏に、大阪府卸組は清水信三氏から辻中治三郎氏に、それぞれ理事長がリレーされた。
・六月、全国のカイロ灰・容器メーカー十三社が「カイロ灰販売計画改正」の要望書をめぐる全国業者大会を開いた。
・七月にミヨシ油脂が日油兵庫を買収、ミヨシ神戸工場が誕生。
・花王石鹸は、取引店の安定策と経営健全化を図るため、八月出荷分から地区別に手形サイト短縮を打ち出した。また、九月には倍額増資、新資本金十億円とした。
・八月、花王石鹸から「チューブ入りフェザーシャンプー」が新発売された。
・石鹸新報社主催の「業界物故者合同慰霊祭」が九月二十日、大阪四天王寺で催された。
・十月、丸見屋が「ミツワウェーブシャンプー」を新発売した。
・資生堂が十月に本社セールス部を機構改革、資生堂商事を設立した。
・芳誠舎相談役保々誠次郎氏が十月二十五日、六十六歳で死去した。
・エステー化学は、日本で初めてのエアゾール消水器「ポニー」を、十月から発売した。
・共進社油脂工業は十二月に石鹸業界初の再販維持制度の認可を公取委から受けた。
・塩野香料は創立三十周年を迎え、祝賀会を催した。

■1960（昭和35）年

・花王石鹸は、新合洗「ザブ」の発売と「現金取引制度」を発表した。
・ライオン油脂が新合洗「ニュートップ」を発売した。
・大阪資生堂ビルが完成落成祝賀会を催した。
・日本電酸工業は、トイレ用洗剤「サンポール」を発売した。
・ライオン歯磨は、マラヤの医療品商社と合弁会社を設立し、歯磨の生産を開始した。
・関西刷子工業協組は、歯ブラシの輸出振興部会を発足させた。
・サンスターと武田薬品の両社が台所用洗剤を発売した。
・第一工業製薬は、合洗「アルコブルー」を発売した。
・卸組合の全国組織結成を目指し四地区の代表が熱海で会談を開いた。
・大阪府日用品卸商組合の創立総会が中之島で開かれ、辻中理事長が選任された。
・丸見屋は創業百周年式典を開いた。
・花王石鹸は、「石鹸発売七十周年記念式典」を催した。
・大日本除虫菊はタイ・バンコクに工場を設立した。
・東海林武雄旭電化社長が地中海沿岸貿易使節団長に選ばれた。
・日本油剤工業会の新会長に圓城佳逸氏が選ばれた。
・本紙主催のゴルフ会「新報クラブ」が結成され、第一回ゴルフ大会を花屋敷で開催した。
・花王石鹸は、住居用洗剤「マイペット」を発売した。
・油脂工業会は創立十周年記念式典を開催した。
・双信化学が「アロベビー」を発売した。
・ライオン歯磨はマラヤライオン、コスタリカライオンを設立した。
・サンスター歯磨の名古屋支店社屋が完成した。
・サンスター歯磨、ライオン歯磨がともに製販価格を引き上げた。
・マッチ調整命令の期限が半年間延長された。
・亀山蝋燭の美術工場、日本蝋燭、佐藤油脂の新工場が完成した。
・桐灰化学の新社屋が完成、販売会社「植木」を設立した。
・関東洗濯糊工業組合、大阪府家庭用糊振興会が結成された。
・長野県卸商組合が設立された。

■1961（昭和36）年

・日華化学、第一石鹸、奈良油脂がスプレータワーを建設して合成洗剤に進出した。
・第一工業製薬のマンモスタワーが完成、「アルコカラー」「アルコL」を発売した。
・ライオン油脂はライオン石鹸会を全国八ブロックで編成した。
・長沢油脂工業は、初の全国代理店会を開催した。
・第一石鹸が石鹸業界初の外国招待旅行を催した。
・在阪中小メーカー四社が共同出資で「城東化学洗剤工業協組」を設立した。
・「全国薫物線香組合協議会」が発足した。
・浴用石鹸の自由化が無期延期、洗剤は自動割当制に決定した。
・「全国家庭用糊工業組合連合会」が設立された。
・「全鹸連」が設立され、初代会長に岩田勘良氏が選任された。
・丸見屋が合洗工場「ミツ

石鹸洗剤・日用品雑貨業界 60年の歩み

＜1962（昭和37）年＞～1972（昭和47）年＞

ワ化成」を設立した。
・「日本家庭用合成洗剤工業会」が設立され、初代会長は丸田芳郎氏が選ばれた。
・ライオン歯磨がＬＭＣを結成した。
・サンスター歯磨がサンスター商事を設立した。
・サンスターが低泡性洗剤「サラット」を発売した。
・カイロ灰の二大メーカー、桐灰化学、楠灰製造が蚊取り線香を発売した。
・安住商事が融通手形不回収で内整理した。
・エステー化学炊事手袋の岡部第三工場が稼働した。
・「西日本クレンザー工業連合会」が発足した。
・アンネが設立され、「アンネナプキン」を発売した。
・水晶ローソクの新工場が完成披露した。
・「全日本軽便剃刃組合」が設立され、組合長に遠藤斉治朗氏が選ばれた。
・各地に卸組合が続々と設立された。

■1962（昭和37）年

・柳沢氏が日刊紙に「石油系合洗は有害である」と発表、大きな論議を呼んだ。
・城東化学洗剤工業協組が「日本合成洗剤」に改組した。
・摂津製油が合洗の生産を開始した。
・化粧石鹸四社が中間価格の値上げを発表した。
・大同除虫菊が社名を「ライオンかとり」に改称した。
・中小メーカーの徳用洗剤「マクラ」が脚光を浴びた。
・本紙主催で、全国のローソクメーカー十六社が浜名湖で問題解決のため会談した。

郊外スーパーに山積みされた徳用洗剤「マクラ」

・日本石鹸が整理、その後、「シスター石鹸」として再建した。
・ミマス油脂がスプレータワーを建設した。
・近畿石鹸工組理事長に小川佐小蔵氏が就任した。
・北陽石鹸の新工場が完成した。
・資生堂会館が完成した。
・楠灰製造と桃屋が業務提携を発表した。
・サンスター金田邦夫社長が急逝、五十歳。
・旭電化東海林社長が日東化学社長に就任した。
・関西輸出刷子工組は東西で歯ブラシの使用調査を実施した。
・サンスター歯刷子の新社屋が完成した。
・燐寸卸商協組の設立が各地で行われた。
・新光燐寸、平和燐寸盛岡工場、大谷燐寸仮屋工場が火災を起こした。
・大下回春堂が社名を「フマキラー」に改称した。
・薫物線香の物品税廃止が決定した。
・鷲尾豊薫堂の淡路工場が竣工した。
・第一製糊と大和燐寸が業務提携した。
・クラレが上原化学、愛糊、佐伯澱粉と、日本合成が宝来糊、稲田、ニシキ糊などと業務提携して洗濯糊の販売に乗り出した。
・フェザー安全剃刀の新社屋が完成した。
・資生堂が「ポアンかみそり」を発売した。
・エンゼル、三洋薬品が創業した。
・川野立志堂、高知県石鹸販売、小倉の工藤商店などが倒産した。
・大阪の大福商事、丸二商事の新社屋が完成した。
・広島、熊本に卸組合が設立された。

■1963（昭和38）年

・ミツワ化成は合洗「プラス」を発売した。
・花王石鹸川崎工場が竣工、披露式を催した。
・油脂工業会館が完成した。
・小島石鹸、トリオ化学、日本殖産のスプレータワーが完成した。
・旭電化が合洗「テルスター」を発売した。
・日本油脂工業会新会長に伊藤英三氏、日本家庭用合洗工業会新会長に礒部善作氏が就任した。
・福岡で花王石鹸共同販社が設立された。
・花王石鹸は、全商品の支払いを「四十五日サイト」にすると発表した。
・ミヨシ化学は業績不振で石鹸洗剤部門を閉鎖した。
・「日本防虫剤工業会」が三十七社の参加で設立された。

サンスター歯磨と塩野義製薬提携15周年大会

・ライオン油脂が「全国ライオン石鹸会」を結成した。
・共進社油脂工業の安田工場が完成稼働した。
・丸見屋が「ミツワ石鹸」に改称した。
・ライオン油脂の本社社屋が完成した。
・サンスターは販売会社、「サンスター・インターナショナル」を設立した。
・山本刷子は「エビスはぶらし」に改称した。
・フマキラーが電気蚊取り器「ベープ」を発売した。
・鎌田商会が「ノンスメル」を発売した。
・八家化学工業は、富士燐業、梶原燐寸、久保田燐寸と合併した。
・鷲尾豊薫堂が創業三十周年記念式典を催した。
・高知県衛生材料協会が結成された。
・山陽スコットが「スコット・トイレットティシュ」を発売した。
・全鹸連が独禁法違反で公取委の調査を受けた。
・森友商店、栗山商事の新社屋が完成した。
・加納商店が加納商事に改称した。
・名古屋の岩幸、京都の千歳商事が倒産した。

■1964（昭和39）年

・ライオン油脂宣伝部長吉村俊夫氏が急逝、五十二歳。
・東花が「ペリカン石鹸」に改称した。
・長沢油脂工業が「クロバー石鹸」に改称した。
・第一工業製薬とシェル化学製品は、共同出資で「ニッポンティーポールカンパニー」を設立した。
・新潟地方に大地震、地元業者に被害が出た。

・日本石鹸工組理事長に須崎祐男氏が就任した。
・シスター石鹸が日本石鹸を併合した。
・大日本除虫菊は創業八十周年式典を開催した。
・キング除虫菊は創業八十周年祝賀会を催した。
・蚊取りメーカー七社で「ベープ普及会」を結成した。
・ライオンかとり東京支店が完成した。
・日本殺虫剤工業会新会長に上山勘太郎氏が選任された。
・双信化学が不渡りを出して倒産した。
・ライオン歯磨は「日本ＬＢ」を設立した。
・花王石鹸は、全国で再販契約を実施すると発表した。
・ライオン油脂川崎工場が竣工、披露式を催した。
・資生堂の新社長に森治樹氏が就任した。
・エステー化学の本庄工場が完成、ゴム手袋の生産を開始した。
・日産農林が姫路工場を新設した。
・花王石鹸が、「花王スターチ」を発売した。
・三和刃物大阪支店社屋が完成した。
・フェザー安全剃刀の新工場が完成した。
・三和刃物は、「貝印Ｔ型」を発売した。
・ドットウェル社が英国の「ウィルキンソン替刃」の販売を始めた。
・興国衛生材料は、「興人プリシラ」と改称した。
・紙綿協会会員が衛材工業会に加入し、紙綿部会として発足した。
・大昭和製紙がチリ紙に進

出した。
・宮井商店が「宮井産商」に改称した。
・天生堂の新社屋が完成した。
・花王石鹸が再販実施で、卸業者に協力を要請した。
・全鹸連が新潟震災の見舞金を新潟卸組合に手渡した。
・岩田逸作商店の社屋が完成した。
・伊藤伊三郎商店が「伊藤伊」に改称した。

■1965（昭和40）年

・浴用石鹸メーカーの共進社油脂工業、ミツワ石鹸、資生堂は三十円石鹸を三十三円にすると発表した。
・第一石鹸がニッカ石鹸の合洗設備を買収した。
・資生堂が再販を実施した。
・ニッカ石鹸は、合洗の乱売で操業を停止した。
・ミツワ石鹸が台湾の天香化工と技術提携した。
・公取委が花王石鹸の生協への出荷停止に対して勧告した。
・小島石鹸と福田油脂が「大成合洗」を設立した。
・サンスター歯磨が台湾の日星化工と提携した。
・花王石鹸は、台所用洗剤「ファミリー」を発売した。
・日進香料と小川香料の新工場が竣工した。
・共進社油脂工業の東京支社ビルが完成した。
・大日本除虫菊は、電気蚊取り器「キンチョウエイト」を発売した。
・ライオン歯磨は、合弁会社「ライオンブリストルマイヤーズ社」を設立した。
・ライオン歯磨、サンスター歯磨がともに新取引制度を発表した。
・エステー化学の新本社社屋が完成した。
・鎌田商会が「アイスノン」を発売した。
・小林脳行が創業百年記念式を開催した。
・西日本ローソクメーカー六社が「価格改定」について会談、また「蝋燭の正しい使い方」の文書を配布した。
・東京孔官堂が「青雲」「君が代」を発売した。
・孔官堂社長増田金一郎氏が死去した。
・桐灰化学社長に植木亮氏が就任した。
・粉末糊メーカーが「全国粉末糊工業組合」を結成した。
・資生堂は、剃刀「スーパーポアン」を発売した。
・服部時計店の傍系会社服部貿易が「シック剃刀」の国内販売を開始した。
・ウィルキンソン剃刀は、ライオン歯磨の日本ＬＢで販売を始めた。
・アンネが「ニューパンネット」を発売した。
・大成化工は、「チャームデラックス」を発売した。
・全国チリ紙工業組合では、新増設など行き過ぎた設備投資は避けるなどを決めた。
・大阪卸組合理事長に河野義男氏が選ばれた。
・東京の中堅問屋が「東親会」を結成した。
・東京卸組合が製販業者四百人を招いて「業界団結総決起大会」を開いた。
・旭電化会長東海林武雄氏が専売公社総裁に就任した。

■1966（昭和41）年

・サンスター歯磨は、アルバート・カルバー社との合弁会社「アルバート・サンスター」を設立、「ＶＯ５」を発売した。
・第一工業製薬は、全製品を完全ソフト化したと発表した。
・花王石鹸がタイ国との合弁会社「泰国花王実業」を設立した。
・ライオン油脂が新製品「エメロン」を発売した。
・第一工業製薬は、新製品「アルコカラー」を発売した。
・エビスはぶらしは創業七十周年祝賀会を開いた。
・日本精蝋が徳山に工場を建設した。
・孔官堂の多賀工場が完成した。
・東京孔官堂の本社ビルと東京工場が完成、また社名を「日本香堂」に改称した。
・梅栄堂の新工場が完成した。
・西日本の糊メーカー九社で「糊友会」を結成した。
・三共製薬が「クリーンプレス」を発売した。
・ジレットは、「ジレットジャパン日本支社」を開設した。
・剃刀メーカー菊屋とスーパードールが合併した。
・大成化工が「チャーム」に改称した。
・日本家庭用合洗工業会新会長に古山二郎氏が選ばれた。
・愛媛、香川の紙綿メーカーが「北四国衛生紙綿協組」を結成した。
・ライオン歯磨は、株式市場第一部に上場した。
・ライオン油脂は、台所用洗剤「ママレモン」を発売した。
・大阪卸組合の「石鹸日用品会館」が完成披露した。
・資生堂の本社ビルが完成した。
・大日本除虫菊が再販の実施に踏み切った。
・フマキラー東京本社ビルが完成した。
・通産省が合成洗剤とカラーテレビの値下げ指導を行うと発表した。
・全チリ紙連が総合調整規定を制定した。
・東京で「多喜屋花王商事」、神戸で「松花商事」と花王販社が設立された。
・保美商事が新社屋を完成した。
・伊藤伊の新社屋が完成した。
・中央石鹸の三鷹デポが完成した。
・大阪卸組合と本紙共催の「第一回業界運動会」が開かれた。

■1967（昭和42）年

「シャボン玉ホリデー」300回記念パーティー

・ライオン油脂とライオン歯磨は、共同で「ライオンハウスホールド社」を設立した。
・資生堂新社長に岡内英夫氏が就任した。
・ライオン歯磨新社長に小林敦氏が就任した。
・ミツワ化成と第一工業製薬が業務提携を発表した。
・花王石鹸は、徳用洗剤「ビック」を発売した。
・日本油脂工業会新会長に宮崎寅四郎氏が選ばれた。
・皆様石鹸中村勤社長が死去、四十九歳。
・東京卸組合新理事長に山県正信氏が就任した。
・「日本歯磨工業連合会」が設立された。
・日本油脂新社長に村田勉氏が就任した。
・ライオン販送が営業を開始した。
・ライオン油脂は、合洗「ダッシュ」を発売した。
・花王石鹸は、歯磨「ハロー」を発売した。
・三井商事と酒井商事が合併して「三井商事」を設立した。
・清水忠会長清水信三氏が死去、六十九歳。
・日本ＬＢが制汗剤「バン」を発売した。
・ライオン歯磨が再販を実施した。
・サンスター歯磨は、建値を八掛に改定した。
・亀山蝋燭の本社事務所が完成した。
・敷島線香が富増物産と業務提携した。
・播磨糊と中央製糊が販売会社「ＡＢＣ糊」を設立した。
・全国粉末糊協議会の結成総会が大阪で開かれた。
・三和刃物は、「貝印カミソリ」に改称した。
・全チリ紙連は、外資系メーカーの進出に抗議して通産省に陳情した。
・常磐産業は、創業四十五周年式典を催した。
・全国の黒チリ紙メーカーは、市況安定と発展のため「全国黒チリ紙連絡協」を設立した。
・中央石鹸が「セントラル商事」の営業一切を継承した。
・東親会が蔵前国技館で見本市を開催した。
・埼玉県卸、香川県卸がそれぞれ組合創立総会を開いた。
・各地で多数の花王販社が設立された。
・大阪の植木商店が、「ウエキ」に改称した。
・大福商事は、創業四十周年式典を開いた。

■1968（昭和43）年

・第一工業製薬は、新製品「モノゲンオール」を発売した。
・高知のチリ紙メーカー三星紙業、岩井製紙、金星製紙の三社が業務提携、品質、企画、銘柄を一本化した。
・長岡駆虫剤製造社長に長岡徹氏が就任した。

花王販社対策協議会が公取委に陳情

・ウエキは中西商店の販売部門を継承し、中西商店は中西花王販売を設立した。
・日本油脂は、新製品「ニッサンバリ」を発売した。
・「レモン表示」で厚生省は、一カ月以内に商品を回収し、今後虚偽または誤解を招く表示について厳しく監視していくと発表した。
・千葉県卸商組合が設立された。
・ライオン油脂の戸田配送センターが完成した。

・サンスター歯磨の東京支店ビルが完成した。
・花王石鹸は、現金制とし、商品着荷後十五日払い、即引きを行い、期末礼金はなしなどの新取引制度を発表した。
・堺の薫物線香メーカーが「堺線香工業協組」を設立した。
・ライオン油脂の府中配送センターが完成披露した。
・アンネは、ドイツのカールハーン社と技術提携し、「アンネタンポンｏｂ」を発売した。
・ジョンソンの新社長に小山八郎氏が就任した。
・中野彦三郎商店、岡山石鹸、津田物産、徳倉の四社が「西日本共和物産」を設立した。
・「京都石鹸卸協組」が発足した。
・ライオン油脂の台湾工場が操業を開始した。
・第一油脂社長栄藤稔氏が死去、五十三歳。
・シスター石鹸と小島石鹸が共同で新会社「タップ洗剤」を設立した。
・第一工業製薬は、創業五十周年記念式典を開催した。
・多喜屋が廃業した。
・牛乳石鹸共進社は、創業六十周年記念祝賀会を催した。
・ライオン油脂は、三強政策を進めるため、その趣旨に賛同する問屋に「ライオン油脂製品部」の設置を進めると表明した。
・大阪で有力問屋八社で「共栄クラブ」を結成した。
・シスター石鹸は、第一油脂と提携し同社の設備を引き継いだ。
・第一工業製薬の新社長に圓城佳逸氏、田中豊氏は会長に就任した。
・東京の問屋が「花王販社対策協議会」を結成した。
・東京卸組合新理事長に柳健二郎氏が就任した。
・花王石鹸新社長に伊藤英三氏が就任した。
・ライオン油脂は、大阪工場の竣工披露式を催した。

■1969（昭和44）年

・ライオン歯磨とライオン油脂は、共同体制強化を発表した。
・石鹸メーカー大手八社が「水曜会」を結成した。
・花王は、合洗「アタック」を発売した。
・ライオン油脂は「スパーク」を発売した。
・山和と宝屋が提携、新会社「タカラヤ」を設立した。
・ライオン油脂は、東西で創立五十周年式典を催した。
・アツ美油脂が倒産した。
・ライオン歯磨明石工場が完成し、披露した。

卸再編の草分けとなったダイカが設立

・大阪の問屋五社が「セントラル物産」を設立した。
・十條キンバリーが「ワンラップ」を発売した。
・小林脳行が台湾に合弁会社を設立した。
・キング化学が大阪で創立五十周年式典を催した。
・大阪の問屋三社が「関西物産」を設立した。
・花王販社対策協議会が解散した。
・名古屋の有力問屋八社が「中日物産」を設立した。
・サンスター歯磨新社長に金田博夫氏が就任した。
・共同仕入機構「関東ホームズホールセール協組」が発足した。
・北海道の問屋四社が合併、「ダイカ」を設立した。
・桐灰化学、楠灰製造が「共同価格発表会」を催した。
・中央石鹸が「タンパックス会」を結成した。
・花王石鹸が、米のフィリップモリス社と提携し、替え刃「ペルソナ」を発売した。
・北海道の問屋二社が合併、「粧連」を設立した。
・サンスター歯磨はシオノギ製薬との提携を解消した。
・第一工業製薬、ミツワ石鹸、旭電化が「日本サンホーム」を設立した。
・日本電酸がサンポールに改称した。
・丸日販売と大丸藤井が合併、「大丸藤井」として発足した。
・アース製薬が倒産、会社更生法を申請した。
・津田物産と本多物産が合併、「ハリマ共和物産」を設立した。

■1970（昭和45）年

・日本香料工業会が設立され、初代会長に高砂香料工業社長の中西健次氏が選ばれた。
・九州の問屋七社が共同出資して設立する「九州明和」の発起人会が開かれた。
・西日本クレンザー工業会が設立され、初代会長にマケン石鹸社長内海博次氏が選ばれた。
・全国糊工業連合会の発起人会が開かれ、大力糊社長桑野忠男氏が会長に選ばれた。
・大阪の老舗問屋「清水忠」が廃業し、九十年の歴史を閉じた。
・ライオン油脂は、出光興産、本州製紙と提携して共同事業構想を発表、「リードペーパータオル」を発売した。
・東京の中央石鹸が「中央物産」に改称した。
・九州の化粧品系問屋六社が共同出資した「西日本ホームズ」が四月一日スタートした。
・五月二十日、元花王石鹸社長礒部一郎氏が死去、八十八歳。
・日本石鹸工組理事長に平野油脂社長平野幾三郎氏が選ばれた。
・日本サンホームが、関西の卸店でイーグルクラブ日本サンホーム西日本支部を結成した。
・九月二十九日、ライオン油脂社長小林寅次郎氏が死去、六十八歳。
・シスター石鹸とマツミ石鹸が十月三日、業務提携に調印した。
・中野彦三郎商店は、創業五十周年を機に「広島共和物産」と改称した。
・ライオン油脂社長に本郷与慰男専務の昇格が決まった。
・日本衛生材料工業会が「日本衛生材料工業連合会」と改称した。
・衛生薄葉紙会の創立総会が開かれ、会長に森ホクシー社長が選ばれた。
・花王石鹸の創業八十周年式典が、高松宮ご夫妻を迎え、ホテルオークラで催された。
・西日本の問屋六社が「西日本家庭雑貨卸協議会」の設立披露を行った。
・大阪の化粧品問屋二六商会とヤマセツが合併「ヤマニ」の新会社で再出発した。

■1971（昭和46）年

・東京の老舗問屋「大茂商店」と「秋田屋」が相次いで廃業した。
・日本トイレタイル用洗浄剤工業会の創立総会が開かれ、松本サンポール社長が初代会長に選ばれた。
・日本油脂工業会は「豊年リーバ社の化粧石鹸製造」に反対などの決議したが、その後、条件付きで「化粧石鹸の製造販売」を認めた。
・サンエス石鹸とシスター石鹸が業務提携した。
・花王石鹸は、一貫パレット輸送、自動倉庫、販社のシステム化など、物流三カ年計画を発表した。
・鐘淵化学が石鹸部門を鐘紡に譲渡、「カネボウ石鹸販売」としてスタートし、社長に岩田美之氏が就任した。
・ライオン歯磨、本州製紙、東レの三社がアンネの株六五％を取得、経営に参画した。
・王子製紙は販売会社「王子ティッシュ販売」を設立した。
・ライオン油脂本社ビルが完成、四月一日、関係者に披露した。
・花王石鹸は、西独バイヤスドルフ社と合弁会社「ニベア花王」を設立した。
・神戸の松井商店が内整理に入った。
・東西一本化した「日本歯磨工業会」が発足、会長に小林富次郎氏（ライオン歯磨社長）が選ばれた。
・牛乳石鹸共進社は、総合研究所を完成披露した。
・ライオン歯磨小林富次郎社長は、歯科疾患研究のために私財一億円を投じて「富徳会」を設立した。
・東京の中堅問屋油松とタカラヤが合併、「山宝」の社名で再出発した。
・花王石鹸社長伊藤英三氏が十月二日死去、六十八歳。
・花王石鹸社長に丸田芳郎副社長が就任。
・鐘紡とミヨシ油脂の合弁会社「カネボウ石鹸製造」が操業を開始した。
・ライオン歯磨創業八十年式典が、帝国ホテルで開かれた。
・係争中だったアロマは、生産を三井ケミカル、販売はアロマで決着した。
・北陽石鹸が廃業した。
・化粧石鹸公正競争規約が認可された。
・十カ国蔵相会議で、円の新為替レートが一ドル三百八円と決まった。

■1972（昭和47）年

・米国のＰ＆Ｇ社調査団五人が来日、十日間の日程で日本サンホームに関しての調査を実施。
・ミツワ石鹸と豊年リーバが合併会社「日本化粧石鹸」の設立を発表した。
・近畿地区の有力問屋五社により「近畿共和」が設立披露された。
・ミツワ石鹸が日本サンホームから脱退した。
・カネボウ石鹸は、代理店百三社を招いて「第一回全国代理店会」を開催した。
・ミツワ石鹸は、リバーサ

石鹸洗剤・日用品雑貨業界 60年の歩み

＜1972（昭和47）年＞～1986（昭和61）年＞

イドビルを披露するとともにミツワ会を結成、男性用バス化粧品を発売した。
・家庭紙問屋を中心とした「西日本家庭品協同チェーン」が発足した。
・資生堂の新本社ビルが完成し、関係者五百名を集めて披露した。
・西日本共和物産は、熱海で初の合同大会を開いた。
・資生堂の創業百周年パーティーが帝国ホテルで開かれた。
・日本油脂工業会会長に日本油脂社長村田勉氏が選ばれた。
・常磐産業が「トキワ販売」を設立した。
・花王石鹸は、完成した九州工場を披露した。
・ジョンソンの大磯の新本社が完成、高松宮ご夫妻を迎えて披露した。
・北海道卸粧連総会で、新会長にダイカ社長橋本雄介氏が選ばれた。
・福田武夫氏（日本石鹸）が死去、六十九歳。

日本サンホーム、P＆G、伊藤忠が合弁会社設立に調印

・P＆G社と日本サンホーム、伊藤忠商事は、ホテルオークラで合弁契約の調印を行った。
・ライオン油脂は、大阪工場内に、コンピューター管理の無人倉庫を完成した。
・愛媛パルプ協組は、完成した「共同古紙処理場」を関係者に披露した。
・大日本除虫菊は、三井物産と日タイ合弁会社「鶏冠化工有限公司」を設立した。
・桐灰化学相談役植木養造氏が十月十二日死去、八十歳。
・北海道製紙協組の苫小牧工場が完成した。

■1973（昭和48）年

・「P＆Gサンホーム」の設立披露が東西で催された。
・ライオン油脂では小林宏新社長の就任披露を行うとともに、機構改革を実施、一戸常務が家庭品事業本部長に就任した。
・P＆Gサンホームは新合洗「全温度チアー」を発売した。
・日本油脂工業会と日本家庭用合洗工業会が一本化、「日本石鹸洗剤工業会」として再出発した。
・花王石鹸は、クラレと提携して「リビングクロス」を発売するとともに、家庭品事業本部を新設した。
・全卸連の会長が山県正信氏から伊藤弥太郎氏にバトンタッチされた。
・全卸連が日本石鹸洗剤工業会に、浴用石鹸のプライスアップ、洗剤の量から質への転換の要望書を提出した。
・花王石鹸が主力製品の約半数の価格改定を発表した。
・牛乳石鹸共進社は七月十日から、「四十円以下の石鹸生産を打ち切る」と発表した。
・日本石鹸工業組合が「日本石鹸洗剤工業組合」として再出発した。
・米国が牛脂を含む四十一品目の輸出制限を、カナダが牛脂輸出規制を発表したため、日本石鹸洗剤工業会は政府とNRAに抗議の陳情をした。
・公正取引委員会は、再販指定品目の縮小のため、浴用石鹸、合成洗剤、歯磨などの再販を一九七四（昭和四十九）年九月で撤廃すると発表した。
・エステー化学は新社長鈴木誠一氏の就任披露レセプションを、創立二十五周年式典と併せて催した。
・日本石鹸洗剤工業組合は十月一日から、「マル証規格」を実施した。
・津村順天堂が創業八十周年祝宴の後「ツムラ会」を結成した。
・ナフサ、トリポリ、ぼう硝、カートンが品不足となり、原料副資材が高騰した。

洗剤を求めて人々は長い列をつくった

・十一月上旬、オイルショックでトイレットペーパー、洗剤、石鹸などが買いだめされてパニック状態となり、メーカー問屋とも在庫は底をついた。
・通産省は、大手製紙メーカー五社にトイレットペーパーの増産を指示した。
・大手合洗メーカー五社は、合洗百五十万箱を東京地区に緊急出荷した。
・十月の浴用石鹸の出荷は、一万七八三ﾄﾝ、前月比数量で一五七％、金額で同一二二％となった。
・十月の家庭用合洗の出荷数量は七万五九二九ﾄﾝ、前月比一二二％、金額同一三九％となった。

■1974（昭和49）年

・通産省は合洗メーカーの代表を招き、「緊急増産の要請と値上げの自粛について」話し合った。
・中小合洗メーカー十五社と通産省が話し合い、通産省は増産を要請した。
・通産省は一月十六日から、全国一斉に洗剤、トイレットペーパーなど四品目についてメーカー、問屋、小売店の在庫調査に乗り出した。
・二月末ごろになって、もの不足はようやく解消の方向に向かった。
・衆議院予算委員会に花王石鹸の丸田社長が参考人として出席した。
・花王石鹸丸田、ライオン油脂小林の両社長が参議院予算委に参考人として出席した。
・サンポールが不渡りを出したが、会社更生法が受理され、四月十五日から生産を再開した。
・日本クレンザー工業会が設立され、初代理事長にカネヨ石鹸社長、鈴木治作氏が選ばれた。
・花王石鹸は、東京都の「洗剤不足は生産制限、出荷操作による」という調査結果を、名誉信用を失墜させたとして東京地裁に提訴した。
・三重大学三上教授が「合成洗剤の皮膚塗布による催奇性」を発表、これがきっかけに総評などによる「合成洗剤追放大会」が繰り広げられた。
・日本石鹸洗剤工業会会長にミツワ石鹸社長三輪善雄氏が選ばれた。
・大手合洗メーカー五社は、通産省に一四％前後の値上げを申請した。日本石鹸洗剤工業組合も、通産省に原料安製品安の実情を陳情した。
・厚生省は、六月一日付で「塩ビ系ガス殺虫剤」の生産、販売禁止を通達した。
・日本油脂家庭品事業部とシスター石鹸の対等合併が発表された。
・花王石鹸は新本社ビル、川崎及び和歌山の自動倉庫が完成、それぞれ披露した。
・「日本芳香消臭剤工業会」が設立され、会長にエステー化学社長鈴木誠一氏が選ばれた。
・通産省は大手メーカー五社の合洗値上げ申請を認めた。値上げ率は平均二五％。

ユニ・チャームの発足発表会

・「チャーム」と「大成化工」が合併して「ユニ・チャーム」として発足すると発表した。社長は高原慶一朗氏。
・シスター石鹸グループ三社と日本油脂家庭品事業部が合併して設立した「ニッサン石鹸」がスタートした。社長には野中市松氏が就任した。

■1975（昭和50）年

・合洗追放全国集会が、東京で開かれ、七百人が参加した。
・牛乳石鹸共進社社長宮崎寅四郎氏が死去、七十二歳。
・牛乳石鹸共進社は新社長に宮崎楢義副社長の昇格を決めた。
・P&Gサンホームは二月十七日から、液体洗剤「ボーナス」を広島地区で発売した。

全鹸連と全粧連が統一し
全卸連を創立

・全鹸連と全卸連の一本化がなり、上野精養軒で創立総会を開催「全国石鹸洗剤化粧品歯磨雑貨卸商組合連合会」として発足した。初代会長に伊藤伊社長伊藤弥太郎氏が選ばれた。
・チヨカジ社長岡部仁之助氏が死去、六十二歳。
・ミツワ石鹸の整理が公になり、業界に衝撃を与えた。負債総額は六十億円を超えた。
・安全剃刀製造工組に全日本軽便カミソリ組合が合流し、再発足する総会が開かれた。
・秋田県卸商組合が創立総会を開催、富士商会社長鈴木節夫氏が理事長に選ばれた。
・日本石鹸洗剤工業会総会で、ライオン油脂小林宏社長が会長に選ばれた。
・岩手県日用品卸商組合の創立総会が開かれ、理事長に熊長本店熊谷社長が選ばれた。
・兵庫県卸商組合の設立発起人会が開かれた。
・日衛連総会で「紙綿」と「衛材」に分離する新組織を決めた。
・神奈川県の三組合が一本化し、「神奈川県石鹸洗剤化粧品歯磨雑貨卸商組合」として発足した。理事長は並木商店並木社長。
・花王石鹸が濃縮小型洗剤「新ザブ」を発売した。一・六六キロ六百円。
・ミツワ石鹸は、富士工場をP&Gサンホームに売却すると発表した。
・兵庫県卸商組合の創立総会が開かれ、伊藤安社長伊藤宗彦氏が理事長に選ばれた。
・岡山県卸商組合の創立総会が開かれ、理事長に天生堂社長中野英一氏が選ばれた。
・西日本共和物産、九州明和、近畿共和の三グループの共通ブランド「イルカマーク」の商品が市場に出た。
・花王石鹸は、基礎化粧品の第一号「リベーヌ」を発売した。
・ライオン油脂は、低リン化のコンパクト洗剤「スパーク25」を発売した。

■1976（昭和51）年

・東京堂会長浅香源二氏が死去、七十四歳。
・小林製薬は三月から、「サワデー」「ブルーレット」を全国発売して日用雑貨業界に参入した。
・厚生省は「LASの催奇性認めず」とシロの結論を下したが、この問題はその後も断続的に続いた。
・花王石鹸栃木工場が完成、披露を行った。
・大山と関西物産は、商品交流面で業務提携した。
・近畿石鹸工組は、新理事長にニッサン石鹸社長野中市松氏を選んだ。
・家庭紙メーカーは九月一日から、卸値を二〇％引き上げると発表した。
・大粧は社名を十月一日から、「パルタック」に改称した。
・ライオン油脂は「合洗の低リン化を工業会の自主規制値一二％をクリアする八％以下にすることに成功した」と発表した。
・花王石鹸は、「ピルピナス花王」を設立、化学品、誘導品の製造を開始した。
・花王石鹸とコルゲート社が口腔衛生部門の合弁会社「コルゲート・オーラルプロダクツ」の設立で合意、調印した。
・パルタックの本社ビルが完成、披露した。

■1977（昭和52）年

・日本石鹸洗剤工業組合理事長に、近畿石鹸洗剤工組理事長の野中市松氏が選任された。
・日本殺虫剤工業会は、卸主催の展示会に「原則として遠慮する」旨を全卸連など流通四団体に申し入れた。
・愛媛県家庭用薄葉紙工業組合は取引先を招き、値崩れ問題について懇談した。
・静岡家庭紙メーカーは、危機突破大会を開催した。
・日本石鹸洗剤工業会は、新会長に花王石鹸会長沼田明氏を選任した。
・日本石鹸洗剤工業組合は「JISに対するマル証制度」を六月一日から実施した。
・日本石鹸洗剤工業会が、全国SMのチラシなどを集め、公正取引協議会に提出、乱売の実情認識を求めた。
・日本歯磨工業会は、新会長にサンスター歯磨社長金田博夫氏を選任した。
・P&Gサンホームは、日本政府に倍額増資の認可を申請した。
・花王石鹸社長丸田芳郎氏は、日本石鹸洗剤工業会、日本石鹸洗剤工業組合、全卸連に「P&G商法を批判した書簡」を送付、ライオン油脂社長小林宏氏も後日、同様の「小林書簡」を三団体に送った。
・日本P&G社は十月十二日から、「パンパース」を福岡、佐賀の両県で発売した。
・鳥取、島根両県を一つにした山陰卸商組合が設立され、理事長に神田新市商店専務神田馨氏が選ばれた。
・「香川県石鹸歯磨雑貨卸協議会」が再発足し、会長に綾田清次郎氏が選ばれた。
・ライオン油脂とライオン歯磨は、合併を前提とした共販会社「ライオン製品」を五十三年一月から発足させると発表した。
・西日本共和物産は、京都国際会議場で「十周年感謝の集い」を催した。
・全卸連は十一月、第一回全国理事長会を開催した。
・ユニ・チャームの決算が発表された、売上げは百八十八億二千九百万円。
・関東ホームズは、名称組織を変更して「セントラルホームズ」を創設した。

■1978（昭和53）年

・東京卸組合理事長、栗山貞次氏が一月二十三日死去、七十八歳。
・神戸の伊藤安会長伊藤久一郎氏が死去、七十七歳。
・花王石鹸は生理用ナプキン製造会社「愛媛サニタリープロダクツ」を設立した。
・東京、神奈川、千葉、埼玉の卸組合による首都圏協が発足した。
・家庭紙の販売業者が「家同連」を結成、初代理事長に中庄会長服部清氏が選ばれた。
・五晃社長戸井田篤政氏が死去、七十三歳。
・クロバー石鹸が創立三十周年記念「第十回全国クロバー会」を京都で開いた。
・亀山ローソク社長谷川正士氏が死去、六十三歳。
・滋賀県合成洗剤対策委員会は、武村知事に「滋賀県における合洗対策についての提言」を行った。
・奈良油脂は「創業三十周年記念大会」を催した。
・第一衛材と共和三グループ共催の「グアム島招待」が催された。
・元山縣油脂専務山縣忠氏が死去、七十四歳。
・元タケダ産業会長竹田三次氏が死去、七十七歳。
・東京の中堅メーカー「マスマス石鹸」が廃業した。
・マイコール懐炉は、使い捨てカイロ「オンパックス」を発売した。
・「琵琶湖を守る県民運動連絡会議」が八月二十三日発足、合洗追放運動を展開した。
・楠灰製造社長尾崎信太郎氏が死去、七十六歳。
・牛乳石鹸共進社はホテルプラザで「創業七十周年式典」を催した。
・大福商事は、大阪ロイヤルホテルで「創業五十周年式典」を開催した。
・パルタックが東西で「創業八十周年祝賀会」を催した。
・一九五三年度粉末合洗の生産実績は五三万一五四トンであった。

■1979（昭和54）年

・前日本石鹸洗剤工業組合理事長平野幾三郎氏が死去、七十二歳。
・セントラルホームズは「ジェムコ」「中央ホームズ」の二つの会社に分かれ、解散した。
・日本石鹸洗剤工業会、日本石鹸洗剤工業組合、全卸連は、連名で公取委に「独禁法違反事実申告書」を提出した。
・ライオン油脂は、酵素入り洗剤「トップ」を発売した。
・日本石鹸洗剤工業会は、総会で新会長に日本油脂社長小川照次氏を選んだ。
・大阪府卸組は総会で、任意組合への移行と新理事長にウエキ社長、植木竹雄氏を選んだ。
・渋谷油脂工業社長渋谷義雄氏が死去、八十六歳。
・九州卸組は、新理事長に高橋商店社長高橋英一氏を選んだ。
・山形県卸組が設立され、初代理事長に秋山彦太郎商店が選ばれた。
・徳島県卸組が設立され、徳倉共和物産社長徳倉広治氏が理事長に選ばれた。
・楠灰製造は、使い捨てカイロ「新ヒート・パッド」を発売した。
・花王石鹸は、九月から衣

料用洗剤を値上げすると発表した。

粉石鹸推奨の動きも

・五十五年一月発足する「ライオン」の役員は、小林宏会長、小林敦社長ほかが決まった。
・ライオン製品は、十月から衣料用洗剤、粉石鹸を値上げすると発表した。
・ダイカは、創業十周年祝賀会を東京で開催、新社長に大公一郎専務の昇格を発表した。
・福島県卸組が設立され、初代理事長に須田商店社長須田幸雄氏が選ばれた。
・フマキラー会長大下大蔵氏が死去、八十五歳。
・元花王石鹸社長福島正雄氏が死去、八十六歳。

■1980（昭和55）年

・ライオン発足記念の集いが、帝国ホテルで催された。

ライオン油脂とライオン歯磨が合併

・ライオンは、四月から衣料用洗剤、粉石鹸を値上げ。
・ミツワ石鹸の創始者三輪善兵衛翁が死去、九十歳。
・ライオンは、四月から「無リントップ」を発売した。
・花王石鹸は四月末から、衣料用洗剤と粉石鹸の値上げを実施した。

・近畿、山陽道の問屋六社が「サンケイ流通」を設立した。
・滋賀県の「琵琶湖富栄養化条例」が施行された。
・花王石鹸が、無リン洗剤「ニュービーズ」を滋賀県で限定発売した。
・花王石鹸は、化粧品会社「ソフィーナコスメチックス」を設立した。
・皆様石鹸は、再建を前提とした和議申請を行った。
・日本石鹸洗剤工業会創立三十周年式典が催された。
・近畿石鹸工組は、創立三十周年式典を催した。
・中四国の問屋十三社が「ユニショー」の設立披露を行った。

■1981（昭和56）年

・共栄グループは新しく六社を加えて「近畿ユニショー」を設立。
・東京都卸商業組合の創立総会が開かれ、初代理事長に森友徳兵衛氏（森友通商社長）が選ばれた。
・使い捨てカイロ業者が「日本使い捨てカイロ同業会」を設立した。
・日本石鹸洗剤工業組合・近畿石鹸洗剤工業組合理事長、ニッサン石鹸社長野中市松氏が死去、七十八歳。

合成洗剤追放を叫ぶデモ隊

・化粧品問屋ヒルコの再建が、メーカー十五社の支援によって決まった。

・近畿石洗工組は、副理事長でマダム石鹸副社長の生間時夫氏を新理事長に選出した。
・山登、平沢産業、オザワの三社が「ドメス」を設立した。
・ユニ・チャームは、紙おむつ「ムーニー」を発売した。
・P&Gサンホームは、液体洗剤「ボーナス」を発表した。

■1982（昭和57）年

・中央物産の新社屋が完成、関係者に披露した。
・白元は、創業六十周年式典を催した。
・日本香料工業会の新会長に長谷川正三氏（長谷川香料社長）が就任した。
・日本クレンザー工業会は、新会長に島田昌彦氏を選出した。
・衛生薄葉紙会は、新会長に十條キンバリー常務田原敏雄氏を選出した。
・P&Gの明石工場が完成、竣工披露式を催した。
・ライオンの千葉工場が完成、竣工披露式を催した。
・花王石鹸は、基礎化粧品「ソフィーナ」を発表した。
・富山と石川の三問屋が合併して「北陸新和物産」を設立した。
・全卸連は、NB商品の二万二千品目がバーコードに登録されると発表した。

■1983（昭和58）年

・花王石鹸社長丸田芳郎氏は、フィリピンのザビエル大学で名誉博士号を授与された。
・「洗剤・石鹸公正取引協議会」が設立された。
・ユニ・チャームは、「UCR二一〇運動」を全国展開した。
・奈良の油半商事と中谷玉水堂が合併「シンユウ物産」を設立した。
・日本石鹸洗剤工業会は、新会長に宮崎楢義氏（牛乳石鹸共進社）を選出した。
・大日本除虫菊は、防虫剤「ゴン」を発売した。
・東京、神奈川の花王販社八社が合併して「東京花王販売」を設立した。
・花王石鹸は、紙おむつ「メリーズ」、入浴剤「バブ」を発売した。
・ユニ・チャームは、第一回百五十社会を開催した。
・牛乳石鹸共進社は、全国の有力代理店を招いて「創業七十五周年祝賀会」を催した。
・ユニ・チャームは、徳用おむつ「マミーポコ」を発売した。
・第一石鹸の関東工場が完成取引先に披露した。

■1984（昭和59）年

・全国糊工業連合会は、新会長に愛糊工業社長恒川喜代治氏を選出した。
・日本石鹸洗剤工業組合は、大阪で「全国合成洗剤業者大会」を開いた。
・日本石鹸洗剤工業組合は、新理事長にマダム石鹸副社長生間時夫氏を選出した。
・大阪南花王販売と大阪北花王販売が合併して「大阪花王販売」を設立した。
・全卸連は、各メーカーに「取引制度改正のお願い」を送付した。
・マイコール懐炉は、創業八十周年を記念して全国代理店会を開いた。
・東京堂、チヨカジ、永井商事は、新会社「コアネットインターナショナル」を設立した。
・資生堂社長山本吉兵衛氏が死去、六十六歳。新社長に大野良雄副社長が就任した。
・フマキラーの、新社長に大下静之常務が就任した。
・山陰パルタック会長植野憲二氏が死去、八十一歳。
・ライオンとユニ・チャームは「情報伝達システム」の端末機の共同利用で合意に達した。

■1985（昭和60）年

・ライオン、ユニ・チャーム、資生堂、サンスター、ジョンソン、十條キンバリー、エステー化学の七社とインテックは、VAN運営会社「プラネット」を設立した。
・大日本除虫菊は、創業百周年記念パーティーを催した。
・小林製薬は、小林脳行の営業権、資産などすべてを引き継ぐと発表した。
・伊藤伊社長、全卸連会長伊藤弥太郎氏が死去、八十一歳。
・サンポール・クロロックス社は、大日本除虫菊と提携して、新社名「サンポール」で再出発した。
・花王石鹸は、三月期決算で売上げは、三千六百九十八億一千二百万円と発表した。
・大阪府卸組合の新理事長に秀光舎社長畑中秀介氏を選出した。
・全卸連は、総会で新会長に富士商会社長鈴木節夫氏を選出した。
・奈良油脂社長杉本小三郎氏が死去、七十三歳。
・宏和は、「五十周年祝賀会」を催した。

・資生堂と丸三産業は、共同で生理用品製造会社「ミュウプロダクツ」を設立した。
・日本香堂は、「社名変更二十周年記念謝恩会」を催した。
・花王石鹸が「花王」に社名変更した。
・関東地区の問屋七社が「グルッペ」を設立した。
・大山、熊長本店、麻友、霜田物産、伊藤伊、西川商事、夏川本店、宏和が「パンジャパンデータサービス開発委員会」を発足させた。

■1986（昭和61）年

・全卸連は「セントオフ中止」をメーカーに要望する決議を行った。
・愛知、岐阜、三重の花王販社が合併し「東海花王販売」を設立した。
・日本リーバは柔軟仕上剤「ファーファ」を発売した。
・近畿共和メンバー五社とハリマ共和物産は、情報会社「Kリズム」を発足させた。
・東京の老舗問屋駒木が廃業した。
・日本衛生材料連合会総会で新会長に高原慶一朗氏が選出された。
・資生堂は、紙おむつ「ピンポンパンツ」を発売した。
・ミヨシ油脂と玉の肌石鹸が、合弁で販売会社「ミヨシ」を設立した。
・神奈川の四問屋は、共同物流センター建設のため「神奈川流通サービス協組」を設立した。
・全国の問屋九十一社が参加して「パンジャパンデータサービス」を設立、社長にジョンソン副社長御厨文雄氏が就任した。

石鹸洗剤・日用品雑貨業界 60年の歩み

＜1987（昭和62）年＞～2008（平成20）年＞

・合洗追放の全国集会が諏訪市で開かれた。
・ライオンは、新育毛剤「ペンタデカン」を発売した。

■1987（昭和62）年

・大阪の問屋カシマは、大手問屋の中央物産と業務提携した。
・P&Gは「新パンパース」を発売した。
・カメヤマローソクは、創業六十周年記念式典をマレーシアで開催した。
・日本石鹸洗剤工業会は、売上げ税研究専門委員会を発足させた。
・全卸連は、売上げ税対策委員会を発足させた。

コンパクト洗剤の幕明けを告げたアタック

・花王は、濃縮タイプのコンパクト洗剤「アタック」を発売した。
・東京都卸組合の実行委員会は、売上税粉砕決起大会に参加した。
・近畿花王と京都花王、北近畿花王、神戸花王、姫路花王、但丹花王、滋賀花王、奈良花王、和歌山花王が合併し、「近畿花王販売」が発足した。
・スズケン美化学が「ジュン美化学」に改称した。
・P&Gファーイーストは、卸店三十四社を集めて全国最重要中核卸会を開いた。
・神奈川の新堀商店と堀屋商店、霜田物産は「湘南共栄」を設立。

■1988（昭和63）年

・ライオン、エステー化学、十條キンバリーは、愛三岐で共同物流を開始した。
・米国中央物産（丸山源一社長）は、米国のスーパー五社を買収した。
・P&Gファーイーストは、ヘアケア製品の「パンテーン」を発売した。
・九州明和グループ六社と菱食が、共同出資して情報会社「ウインズ」を設立した。

売上げ税に反対しデモをする卸組合の一行

・日本殺虫剤工業会などが進めていた「日本不快害虫用殺虫剤協議会」が設立された。
・日本百貨店協会、日本チェーンストア協会は、公取委の返品に関するガイドラインを受けて、両協会独自の自主規制基準を作成した。
・資生堂は、全国七十二の化粧品販売会社を十五の販売会社に統合した。
・パルタックは、株式の店頭公開を行った。
・アケボノ物産河野義男社長の藍綬褒章の受賞祝賀会が催された。
・浴用剤工業会の設立総会が催され、初代会長に津村順天堂が選出された。
・サンスターは、米国のジョン・オー・バトラー社を買収した。
・滋賀県の要請で「洗濯石鹸技術開発協会」が設立、初代理事長に瀧山謙氏（日本石鹸社長）が選出された。
・全卸連は、全国の百貨店、スーパーに「返品についてのお願い」を送付した。
・P&Gファーイーストは、洗剤「アリエール」とリンスインシャンプー「リジョイ」を発売した。
・エステー化学は、新タイプの防虫剤「ムシューダ」を発売した。
・野村兄弟堂とトウディック石川、トナミ運輸共同のホクリュウ物流センターが完成稼働を開始した。
・秀光舎の新本社社屋が完成、竣工披露が行われた。
・麻友の新社屋が完成、竣工披露祝賀会を催した。
・大福商事辻中治三郎会長が死去、八十歳。
・天皇陛下の容体悪化が、歳暮贈答商戦をはじめさまざまなところに大きく影響した。
・北陸新和物産の本社及び物流センターが完成、竣工披露式を催した。
・大日本除虫菊は、新本社金鳥ビルの竣工披露式を催した。
・中央物産会長丸山松治氏が死去、九十一歳。

■1989（昭和64／平成元）年

・中央物産と鳥光が新会社「新千葉物産」を設立した。
・ライオンは「ライオンオレオケミカル社」を設立、坂出に新工場を建設した。
・呉羽化学工業が「ニュークレラップ」を発売した。
・洗浄剤漂白剤等・安全対策協議会は、「まぜるな危険」を表示すると発表した。
・サンスターは、アルバート・カルバー社と契約を結んだ。
・伊藤伊は、永井商事を吸収して、「テクノ中京」を発足させた。
・トウディック北陸が発足し、野村兄弟堂などと合併した。
・松下電器産業松下幸之助相談役が死去、九十四歳。
・東京花王、埼玉花王、千葉花王が合併、新会社「東京花王販売」を設立した。
・ライオン、エステー化学、ユニ・チャーム、牛乳石鹸共進社、ジョンソン、貝印、小林製薬、ニッサン石鹸、日本リーバ、プラネットは、プラネット物流を設立した。
・神奈川のサンビオグループ五社は、霜田物産は「スミック」、カヤギ屋岸商店は「神奈川スミック」、湘南共栄は「湘南スミック」、いわたは「相模スミック」にそれぞれ改称すると発表した。
・サンスターは、「ガムホームデンティストシリーズ」を発売すると発表した。
・大山と名出は、業務提携して新会社「大山名出」を設立し、営業を開始した。

■1990（平成２）年

・鐘紡は、一月五日付でカネボウホームプロダクツ本部を設置した。
・スミックグループ七社は、一月から社名をスミックに改称。
・ジレット社は、ウィルキンソン社のカミソリ部門を買収した。
・大山と伊藤安ヒルコは、共同で四国大山イトコを設立した。
・日本リーバは「サーフ」を発売して、洗剤市場に参入した。
・日本香料工業会は二月十五日、創立二十周年記念式典を催した。
・不快害虫用殺虫剤協議会は十月から、生活害虫防除剤協議会に改称した。
・ダイカとネタツ興商が合併、六月一日からダイカとしてスタートすると発表。
・花王は三月二十七日、六月から、丸田芳郎会長、常盤文克社長の新トップ人事にすると発表した。
・クロバー石鹸の新社長に永井正一氏が就任、社名を「クロバーコーポレーション」に変更した。
・全卸連は、五月九日開催の常任理事会で、河野義男副会長を会長に選任した。

サンビックが設立された

・新発足のサンビックは、五月二十四日、福岡で設立披露の集いを催した。
・資生堂は、セールス商品事業部をファイントイレタリー事業本部に名称変更した。
・大日本除虫菊は七月一日、サンポールの営業譲渡を受けた。
・花王は、十月十七日東京で、十月十八日大阪で、それぞれ創業百周年記念祝典を催した。

■1991（平成３）年

・日本香堂相談役小仲正規氏が一月七日死去、社葬が一月二十八日青山葬儀所で行われた。
・公正取引委員会は一月七日、流通取引慣行に関する独禁法上の指針を発表した。
・神奈川流通サービス協組（ＫＲＳ）の物流センターが完成した。
・丸富製紙が塚田製紙を吸収、静岡最大の家庭紙メーカーとなった。
・Ｐ＆Ｇは四月十日、全世界のマックスファクター及びベトリックス事業をレブロン社から買収し、化粧品市場へ参入すると発表した。
・鹿児島明和と大山は共同出資して、大山南九州を設立した。
・埼玉卸組の新理事長に佐野一男氏が選出された。
・ライオンオレオケミカルの坂出工場が完成。
・儀間商事は、新社屋完成するとともに九州明和に加入した。
・雲仙普賢岳爆発でメーカー問屋など業界関係にも甚大な被害が出た。
・日本家庭用洗浄剤工業会の新会長に上木健二氏が選出された。
・東北問屋八社による「東北広域流通協同組合」が設立された。
・石鹸技術開発協会が設立、瀧山謙氏が新会長に就任した。
・沖縄浦添市の太平商事が十月一日、パルタックと業務提携した。

■1992（平成４）年

・サンスターは二月から、通販ルートで「快適倶楽部」を発売した。
・ダイカは四月から、メーカーへの返品をゼロにする無返品取引制度を発表した。
・日本使い捨てカイロ同業会は四月から、日本カイロ同業会と名称変更した。
・貝印グループ六社が合併、「カイインダストリーズ」が発足した。
・ライオンは四月、アンネとの合併契約承認取締役契約書に調印。
・新潟の卸問屋四社が合併、エヌ・フォーを設立。
・全家協新理事長に岡部新一郎氏、名誉理事長に天野泰男氏が就任した。
・伊藤安ヒルコは本社を神戸に移転した。
・ＫＲＳが、第二回流通システム大賞を受賞、全卸連河野会長は奨励賞を受賞した。

■1993（平成５）年

・全卸連と流通システム開発センターは一月二十二日、東京化粧品健保会館で「ＪＩＣＦＳ」新統一伝票説明会を開いた。
・ミヨシ油脂相談役三木春逸氏の合同葬が三月三日、東京・青山葬儀所で行われた。
・小川香料は二月二十四日、大阪ホテルプラザにおいて創業百周年祝賀会を開いた。
・広島花王販売、中国花王販売が合併、中国花王販売となった。
・全薫協は、四月十八日を「お香の日」とした。
・日本石鹸洗剤工業会は、岡本甲子男新会長を選出。
・大須賀は五月六日、新本社・物流センター「夢工場」を披露。
・Ｐ＆Ｇファーイーストは、総工費三百三十五億円の六甲アイランド本社・テクニカルセンターの完成披露を行った。
・全卸連は五月二十一日、東京経団連会館で総会を開催し、「全国化粧品日用品卸連合会」に名称変更した。
・全卸連は十月から、業界業種を越えて使用できる「業際統一伝票」を導入した。

■1994（平成６）年

・日本リーバは創立三十周年を迎え、新ロゴマークと二つのＣＩを推進すると発表。
・小森元次郎商店が「こもりコーポレーション」に社名変更。
・資生堂は、化粧品のセルフ販売を強化するなど化粧品事業の新しい方向性を発表した。
・サンビックとリョウショクの共同物流センター「九州ＣＬＣ」が完成、四月八日、竣工披露された。
・資生堂は、神沢副社長が副会長に、豊浦取締役がＦＴ事業本部長に就任する新人事を発表。
・ダイエーがＰＢコンパクト洗剤「セービング・ホワイト」を、イトーヨーカ堂が「シュート」をそれぞれ発売した。
・小林製薬は、建設中であった仙台の新工場が完成、六月十日から本格稼働に入った。
・ユニ・チャームは、韓国で合弁会社を設立し、パンツ型のおむつの生産販売を開始すると発表。
・サンビックは八月二十九日、オオミヤ、藤屋、シンプレックスと九五年四月、合併すると発表した。
・ダイカは九月五日、東京に仕入れ先などを招き、創立二十五周年報告会を開いた。
・白玄堂は八月二十五日、小林製薬に営業権を譲渡すると発表。
・資生堂は、九五年四月から一販社百八支店にする構想を発表した。

■1995（平成７）年

・一月十七日未明の阪神大震災で、兵庫県南部とその周辺のメーカー、卸業者、小売業者に多大な被害が出た。

阪神大震災で倒壊した阪急伊丹駅

・伊藤安ヒルコは二月七日、社名を「伊藤安大山」にするとともに、伊藤会長、大山社長の新人事を発表した。
・米国Ｐ＆Ｇのペッパー社長が二月十日来日、四カ月以内に六甲アイランド本社に復帰できると記者会見で語った。
・日本歯磨工業会は、二月十三日の総会で高橋達直氏を新会長に選出した。
・三月二十四日、名古屋で愛知、岐阜、三重のメーカーが、中部化粧品工業会設立総会を開催。
・サンビックは四月一日から、延岡サンビック、シンプレックス、藤屋の三社の傘下入りを発表した。
・長野の宮坂金人と中部物産貿易雑貨部の合併会社「シンリュウ」の設立披露が松本市内で開催。
・東流社（熊谷昭三社長）が七月一日に設立、十月一日から事業を開始した。
・日華商事は、食品問屋雪印アクセスと業務提携をすると発表。
・全卸連は、十月五日付で「取引制度の変更に関する要望書」を各工業会、工業組合を通じて取引メーカーに提出した。
サンビックと夏川本店は十一月十三日、合併を発表した。
・テクノ中京とケンセキは九六年に合併し、「テクノケンセキ」の新社名でスタートすると発表。
・家庭紙大手問屋の清富が倒産。

■1996（平成８）年

・ライオンは、歯磨発売百年を記念して店頭や学校で「歯磨き相談」「百万本の歯、健康アドバイス」活動を展開すると発表した。
・夏川本店とサンビックの合併で九州ユニショーの運営が困難になったとして二月十五日、活動に終止符を打った。
・花王とライオンは超コンパクト合成洗剤を発売すると発表、ライオンは「スーパートップ」「スパーク」「ダッシュ」、花王は「新活性ザブ」をそれぞれ三月から発売した。
・ユニリーバは三月十九日、ヘレンカーチスの公開株の買い付けを行い、ヘレンカーチスをグループの傘下とした。
・高知県卸問屋クボショー、高知パルタック、菱谷の三社は、エヌ・ケイ・ピーに事業統合の形で合併。
・西日本共和物産は、四国のグループ会社を集約するため「四国共和物産」を設立し、愛媛共和、四国リョーショク日用雑貨部の営業権を譲渡。
・十條キンバリーとクレシアは四月九日、合併に同意するとともに両社社長が覚書に調印。十月一日に「クレシア」としてスタートすると発表した。
・Ｐ＆Ｇファーイーストは六月十一―十五日まで、卸業者の米国研修ツアーを行い、米国の二卸とのＥＣＲの現状を紹介した。
・花王は情報ネットワークの新会社「花王インフォネットワーク」と共同物流の新会社「花王システム物流」の二社を設立した。
・ロレアルグループとコーセーは七月一日、新会社「日本ロレアル」を発足させた。
・小林製薬とブロックドラッグ社との提携解消で、ブロックドラッグジャパンが設立され、アース製薬を通じて商品供給すると発表。
・Ｏ―１５７で除菌関連商品の動きが活発となった。

■1997（平成９）年

・日本石鹸洗剤工業組合理事長、マダム石鹸社長生間時夫氏が一月三日死去、七十四歳。後任社長に生間千鶴副社長が就任した。
・尚和化工の三裏泰紀常務が新社長に就任、社名を「ショーワ」に改称した。
・亀屋ヒルコ、東海ヒルコが合併して「中部大山」を

設立した。
・秀光舎が砂村商店を吸収合併した。
・全家協は、創立三十周年記念協力会総会を開いた。
・山金とコスモプロダクツが対等合併、新「コスモプロダクツ」に。
・パルタックと新和の合併説明会が開かれた。
・日本カイロ同業会会長会社に白元が選出された。
・中四国ユニショーが解散。
・花生堂が、山和の営業権を取得した。
・小川屋は、群馬県邑楽郡に新物流センターを完成した。
・紙問屋さかい産業とヤマサ商会が合併し「アルマーク」を設立した。
・セブン―イレブンの専門納入会社「エス・ブイ・デー」の設立が発表された。
・ダイカ、タナカ、富士商会の合併説明会が開かれた。

西日本共和を設立

・西日本共和物産と九州明和が広域ネットワーク卸「西日本共和」を設立。

■1998（平成10）年

・大手化粧品メーカー六社は、物流業務共同化についての研究と調査を始めた。
・「容器包装リサイクル推進協議会」が設立された。
・新和と合併し、新生パルタックが四月一日からスタート。

・藤原物産がタクトの営業権を引き継いだ。
・大阪の中堅問屋三社が新会社「シンタクス」を設立した。
・ハリマ共和物産の近畿中央物流センターが完成、披露した。
・花王は、米国ボシュロム社のスキンケア事業を買収した。
・日本石鹸洗剤工業会、界面活性剤工業会が、環境ホルモン問題に対して見解を発表した。
・八月、パルタックが神奈川卸三社（スミック、ドメス、折目）の営業権を譲受。
・九月、ハリマ共和物産が西川商事の営業権を譲受。
・中央物産、ダイシン、ヤマヤ商事三社が十月一日付で合併。
・十月一日、富貴堂とジェムコ甲府が合併。
・十一月十五日付けで近畿ユニショーが解散。

新生パルタックがスタート

■1999（平成11）年

・ハリマ共和物産が一月二十一日付けで三井商事の営業権を譲受。
・三月十日、エイコーが新社屋並びにRDC竣工に伴い見学会を開催。
・三月十六日、特定化学物質に関する新法案が国会を通過。
・三月十六日、パルタック

RDC近畿の完成に伴い完成披露見学会を開催。
・伊藤伊と木村屋が四月一日付けで合併。
・四月一日、花王は全国十販社のうち、八社の事業統合を行い花王販売㈱をスタート。
・サンビックと日の本商事が五月一日付けで合併。
・六月十四日、イギリスのドラッグストア・ブーツが日本進出記者会見を開く。
・六月十六日、JACDSが設立総会を開催、初代会長に松本南海雄氏が就任。
・中央物産とチヨカジが十月一日付けで合併。
・十一月三十日、P&Gが下着メーカーのワコールとの提携を発表。
・十二月一日、ライオンとヘンケルが包括的業務提携で合意。

■2000（平成12）年

・二月十二日、ライオン小林敦会長が死去、享年七十四歳。
・二月十三日、長崎屋が会社更生法を申請。
・三月十七日、ヘンケルジャパンが山発産業の全株式を取得。その後ライオンとヘンケルで山発グループのヘアカラー事業を展開。
・花王販売、四月一日から取引制度改訂で、建値制を廃止。
・四月一日、サンビックと天生堂が合併。
・四月一日、パルタックと江口商事が合併。
・四月一日、伊藤伊が兼松カネカの全株式を取得。
・「容器包装リサイクル法」が四月一日から完全施行。
・資生堂が四月三日付けで、エフティ資生堂を設立。

・七月十二日、そごうが負債総額1兆八千七百億円で倒産。民事再生手続きを申請。
・八月一日、ダイカとエヌフォーが合併。
・森友通商がネット販売の「卸合衆国」を十月二日に設立。

■2001（平成13）年

・四月一日、岡山共和物産、四国共和物産、徳島共和物産の合併で、岡山四国共和を設立。
・五月一日、パルタック、米国スパー社との合弁で3PM会社のスパー・エフエム・ジャパンを設立。
・五月十七日、徳倉が同社と中央物産との共同出資で3PM会社のRMSを設立することを発表。
・五月、ジャスコは二〇〇四年までに食品、日用雑貨メーカー二十三社と直取引を行なうことで合意を得ていることを公表、業界に波紋広がる。

あらた設立を
発表する3首脳

・ダイカ、伊藤伊、サンビックの三社は、七月十六日の役員会で翌年四月に共同で持株会社あらたを設立することを決議。
・七月二十七日、山口医療器が自己破産を申請。
・経営再建中のマイカルが自主再建を断念し、九月十四日に民事再生手続きを申請。
・十月四日、大阪の老舗、

大福商事が負債総額五十七億円で自己破産。
・十一月一日付けで伊藤安大山と秀光舎が業務提携で合意。将来的には合併へ。
・共同持株会社構想を発表したダイカ、伊藤伊、サンビックの三社と四国の徳倉が業務提携を締結。
・十一月二十九日、有力化粧品卸の大山が民事再生手続きを申請。
・九州の有力地域スーパー寿屋が十二月十九日、民事再生手続きを申請。

■2002（平成14）年

・三月十四日、米ウォルマートが西友と包括的業務提携を締結。日本上陸の足がかりへ。
・大阪の老舗石鹸メーカーマダム石鹸が三月二十七日、自己破産を申請。
・ライオン、店頭管理会社の「ライオン・フィールド・マーケティング」を設立。三月二十八日から営業を開始。
・四月一日、ダイカ、伊藤伊、サンビックの三社、共同持株会社の「あらた」を設立。
・パルタックと小川屋が四月十五日、業務提携を締結。
・六月一日、グラクソ・スミスクラインが「アクアフレッシュ」ブランドの国内販売権をアース製薬に移管。
・中京地区の医薬品卸小林大薬房が七月一日、自己破産を申請。
・十一月、北海道の有力スーパーラルズが道東の地域スーパー福原と事業統合。

■2003（平成15）年

・一月、広島共和物産が福岡共和と合併、九州地区へ商圏を拡大。
・一月六日、アシハラ、共立紙業、アスト東海の三社が共同持株会社「アストホールディングス」を設立。
・二月十三日、東京の中堅卸で全国中小卸で構成するビッググループリーダー・大熊商事が経営破たん。
・四月一日、サンビックとサンショーが合併。
・パルタックが群馬の小川屋、滋賀の加納商事の二社と四月一日に合併。
・四月二十八日、大阪の家電量販店和光電気が民事再生申請へ。
・五月二十六日、カーマ、ダイキ、ホーマックのHC三社が共同仕入会社「DCM Japan」を設立。
・五月十七日、サプリコ設立総会が開催。旧ビッググループメンバー中心に三十八社でスタート。
・七月一日、エステー・マイコールが発足。国内におけるマイコール製品の販売を手がける。
・白元、十月一日付けでキング化学の全株式を取得。
・十月二十三日、花王とカネボウは、東京都内のホテルオークラにマスコミ関係者を集め緊急共同記者会見を開き、両社の化粧品事業統合で合意したとの発表を行なった。

・二月十六日、カネボウと花王との化粧品事業統合が白紙撤回となったことが明らかとなった。
・愛知の有力スーパー「グランドタマコシ」が二月十九日、民事再生法を申請。

■2004（平成16）年

・マツモトキヨシは三月二十二日、伊東秀商事の株式を取得し、子会社化することで基本合意したことを発表。
・四月一日、秀光舎、伊藤安、シンユウ物産の3社合併により「シスコ」が誕生。
・ライオンとヘンケルジャパンが七月九日付けで合弁契約を解消。
・ライオンと中外製薬は七月三十日、中外製薬の一般用医薬品（ＯＴＣ）事業をライオンに、また、中外製薬の子会社の永光化成の殺虫剤製造事業をライオンの子会社であるライオンパッケージングに営業譲渡することで合意したと発表した。
・九月二十二日、小林製薬グループのコバショウと医薬品大手スズケンが業務資本提携を締結。スズケンの一般医薬品事業をコバショウに統合。
・北海道の有力卸・粧連は九月二十八日、産業再生機構の支援決定を受け、平成十七年一月一日の予定でパルタックへ営業譲渡することを発表した。
・十月十三日、ダイエーが自主再建を断念し、産業再生機構に支援を要請。
・十月十五日、近畿の有力ディスカウントストアのジャパンと、大手ドラッグストアのスギ薬局が、包括的業務提携を締結。
・パルタックは十一月十七日、粧連との間で粧連の営業の全部を譲り受けることを決議し、営業譲渡契約書を締結したと発表。営業譲受日は翌年1月1日。

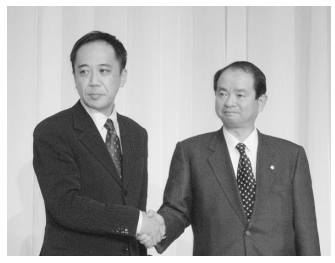
■2005（平成17）年

・手袋大手のショーワが、家庭用品メーカーのキクロンの全株式を一月二十一日付けで取得。
・三月、カルフールがイオンに店舗を売却し、日本から撤退。
・四月一日、熊本共和と鹿児島共和が合併し、イーライフ共和としてスタート。

メディセオ・パルタックＨＤが誕生へ

・四月十八日、医薬品大手のメディセオＨＤが十月一日付けでパルタックを子会社化することを発表。
・四月二十日開催の取締役会でイトーヨーカ堂、セブン―イレブン・ジャパン、デニーズジャパンの三社が経営統合を決議。
・六月一日付けで、日本リーバがユニリーバ・ジャパンに社名変更。
・医薬品卸大手の東邦薬品と大木は六月十日、資本提携・業務提携に関する確認書に調印したことを発表した。
・小林製薬は七月一日、井藤漢方製薬との間で資本業務提携を行なうことを決議し、資本業務提携契約書を締結したことを発表した。
・九月一日付けでカーマ、ダイキ、ホーマックのＨＣ三社がＤＣＭ Ｊａｐａｎホールディングスを設立し、経営統合。
・米国Ｐ＆Ｇ、十月一日付けでジレット社を買収。

・十一月十五日、マツモトキヨシとぱぱすが業務・資本提携を締結。
・あらたが十二月一日付けでペット関連卸のジャペルを完全子会社に。
・十二月八日、あらた、中央物産、シスコの三社が包括的業務提携を締結。


カネボウ化粧品が花王グループの傘下に

・十二月十六日、カネボウ化粧品が花王グループの傘下になることが決定した。

■2006（平成18）年

・一月十六日、ゴム製品メーカーのオカモトがナガオカから入浴剤、ホウ酸ダンゴなどの事業の譲受を行うことを発表。
・マツモトキヨシと鹿児島のミドリ薬品が二月二日、業務・資本提携を締結。
・二月二十七日、資生堂が新ヘアケアメガブランド「ＴＳＵＢＡＫＩ」のブランド発表会を盛大に開催。
・ユニ・チャームグループと資生堂グループは、三月三十一日、エフティ資生堂の生理用品事業（センターインブランド）をユニ・チャームが譲り受けることで、基本合意した。
・四月一日、西日本共和、中央ホームズ、東流社の三社が相互補完の機能協働体「Ｊ―ＮＥＴ」を結成。
・白元が四月一日付けで、グループ会社のキング化学と大三の営業部門を白元に統合。
・五月三十日、花王・元代表取締役社長・会長丸田芳郎氏が、肺炎のため死去。九十一歳。
・花王とリブドゥコーポレーションは五月三十一日、介護ビジネスを中心とした日本国内での事業提携に合意し、業務・資本提携契約を締結した。
・あらた、中央物産、シスコは六月十五日、予定していた三社合併に関する基本合意を解消し、あらたとシスコとの二社による合併（十月一日付）の基本合意を改めて締結。
・Ｐ＆Ｇ Ｆａｒ Ｅａｓｔ，Ｉｎｃ．、七月一日付けで日本法人「Ｐ＆Ｇ・ジャパン」に事業を移管。
・七月一日、アストホールディングスと傘下の三社が合併し、アストを設立。
・十月十三日、イオン、丸紅、ダイエーの三社はダイエーとイオンの資本・業務提携に向けた交渉を開始することで合意したと発表。
・十二月四日、ニッサン石鹸は、ユニリーバの柔軟剤「ファーファ」の国内ライセンスを取得することで合意。
・パルタックが十二月二十六日付けで、松江共和物産の全株式を取得し子会社化。

■2007（平成19）年

・四月、中央物産がアケボノ物産の日用品雑貨卸売業に関する事業を継承。紙製品雑貨卸売業のアルボを子会社化。
・大王製紙は六月十四日、Ｐ＆Ｇが日本で展開する大人用紙おむつ「アテント」の事業を取得、継承することで合意し、資産売買契約を締結した。
・六月、〝カネボウ〟ブランド三事業を展開しているカネボウ・トリニティ・ホールディングスは、商号を「Ｋｒａｃｉｅ（クラシエ）」に変更することを発表した。
・七月一日付で、ジレット・ジャパンの事業をＰ＆Ｇに移管。
・エステー化学は八月一日付けで「エステー㈱」へ商号を変更。
・大木、東邦薬品、国分の三社は八月七日、食品・医薬品・化粧品・日用品事業に関する中間流通基盤の発展を目指した業務提携について基本合意に達したことを発表した。
・大王製紙は九月三日、米国Ｐ＆Ｇからの大人用紙おむつ「アテント」事業引継が、予定通り九月一日をもって正式移管したと発表。
・九月二十六日開催のメディセオ・パルタックＨＤとコバショウの取締役会において、パルタックとコバショウの合併について合意。
・ＣＦＳコーポレーションとアインファーマシーズは十月五日、共同記者会見を開き、来年四月一日付けで経営統合することに合意したと発表。
・十月一日、中央物産が首都圏の家庭紙卸システムトラストを子会社化。
・医薬品卸大手のアルフレッサホールディングス並びにシーエス薬品、丹平中田の三社は十一月十二日付けで、セルフメディケーション事業体制構築に関する合意書を締結。
・セガミメディクスとセイジョーは、十一月十五日開催の両社取締役会で、株式移転計画書を作成し、共同持株会社設立による経営統合を行うことを決議した。
・ピップフジモトとピップトウキョウは、十一月十九日、両社の取締役会で、株式移転による共同持ち株会社を設立することを決議。これを受けて平成二十年五月一日、「ピップ㈱」が設立。

■2008（平成20）年

・一月、原油価格がついに一〇〇ドルを突破。ますます深刻化する原燃料価格高騰の影響。
・一月二十二日、ＣＦＳコーポレーションとアインファーマシーズとの経営統合案が白紙に。
・メディセオ・パルタックＨＤは、二月十三日の取締役会でパルタックが四月一日付けでエイコーの全株式を取得することを決議した。
・三月十三日、医薬品卸の大木は資本業務提携していたウエキの株式を七月一日付けで一〇〇％取得し、完全子会社化することを発表。
・イオンとＣＦＳコーポレーションは三月十七日、記者会見を開き両社が業務・資本提携強化に合意したと発表。昨年来、アインとの経営統合を巡る両社の対立にも終止符。
・近畿共和、三月末で解散。
・四月一日、パルタックがコバショウとの合併に伴い「パルタックＫＳ」に商号変更。
・四月一日、中央物産が関東圏で家庭紙卸を展開する五色屋を子会社化。